



平成30年度友好都市交流事業報告

平成28年6月に鹿児島県南種子町と友好自治体提携を結び、同年度より飛島学園6年生10名を同町に派遣しています。

平成30年12月22日(土)～24日(月)の3日間、現地の児童たちとの交流や様々な場所での研修など、貴重な体験を通して交流団一人ひとりが研修テーマにそって、学びを深めることができました。

自然と歴史溢れる南種子町



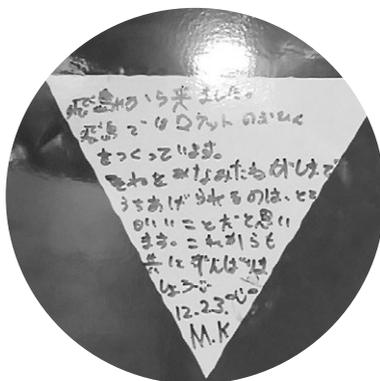
南種子町はマングローブが自生する北限地。目の前一面に広がるガジュマルの木々に圧倒されました。

潮の満ち引きによって自然にできた洞窟「千座(ちくら)の岩屋」。洞窟の中は千人が入ることができるほど大きいと言われています。



ポルトガル船が漂着し、それがきっかけで日本に火縄銃が伝わった門倉岬を訪れました。崖に打ち寄せる波の激しさを見て、自然の雄大さと厳しさを感じました。

未来に思いを託して



宇宙センターには自分の思いが書けるフリースペースがありました。写真はそこで子どもたちが書いたものです。それは自分の住む村に誇りをもった、未来へ繋ぐメッセージでした。



体験して学ぶ!



交流して学ぶ!



食べて学ぶ!

人との交流、 そして未来へ

交流団の目的の一つは、飛島村と南種子町の架け橋になること。様々な交流活動を通じて、絆を深めることができました。これをきっかけに、二つの自治体の交流がより一層活発なものになることを願っています。



見て学ぶ!



私たちが二つの自治体の 架け橋になります!



研修に参加して、たくさんの人に自分からあいさつができるようになりました。前までは恥ずかしくて自分からあいさつはできなかったけれど、研修に参加してあいさつができるようになってよかったです。
(三宅 凛佳)

3日間の研修の中で特に印象に残ったことは、「マングローブパーク」と「千座の岩屋」です。マングローブパークは1日目の移動で疲れたあとで行きましたが、その美しさと楽しさで疲れを忘れるほどでした。千座の岩屋では海に入りとても楽しかったです。
(成田 仲那)